

令和2年度 第2回 加西市子ども・子育て会議

日時 : 令和3年2月18日(金)
14時59分～16時48分

場所 : 加西市役所 5階大会議室

1. 開会

2. 協議事項

(1) 加西市小規模保育所設置・運営法人の募集について

○A委員 小規模園は認可保育所になるのか。

○事務局 認可保育所になる。

○A委員

加西市の乳児の受入数の不足の現状について、どれほど不足しているのか。また、どれぐらい続くと考えられているか。

○事務局

現在、加西市の待機児童は0人。国で定める待機児童数は、この園でないと絶対に入らないという方はカウントしないことになっている。加西市全体で、どこかの園で、受入ができるかぎりには、待機児童は発生しない前提である。実際、北条の街には、保育ニーズが多くある。車で遠くまで通えない、あるいは仕事とは逆方向など、自分の家の近くで子供を預けたいという方は実際のところかなりの人数がある。今後も増えていくと見ている。ほとんどが0歳、1歳。潜在的な需要もあるが、60名ぐらいのニーズが0、1、2歳で足りないと見込んでおり、その意味で3施設を想定している。

○A委員

加西市の中心部のニーズに対して供給が不足しているということで、60名は、園に空きがあれば利用したいけれど、遠いところに行かないといけないとか、そういう理由で利用をあきらめていると考えてよいか。

○事務局 自分の行きたい園で待つ方が多数ある。

○A委員

待機児童ではないが、日々の生活を考えると他園は選択できないので、準待機児童、待機児童に近いような人と言うべきか。公的な国のカウントには出てこないが、自治体がきめ細かく対応して、今回こういう策を打ち出しているのか。

○事務局

「待機児童」とは区別して、「入園保留」と呼んでいる。特に問題になっているのは、年度途中に加西市に転入した方が、年度当初の入園申込に間に合わなくて、せっかく加西市に移り住んだのに、通える園が近くにないということがある。現状のニーズにプラスして潜在的な需要を見込んで60という数字を想定している。

○A委員

それが本当に近い数と言えるかもしれない。特に0、1歳が一番大切な時期。こんな形で隙間を埋めていく。私は良いことをされてると思う。

○会長

3つあればいいというわけではなく、利用者の利便性を配慮しながら、募集し選定している。60名だけの規模で応募者があるということではなく、保護者の立場から判断していくということも付加価値として求められる条件である。

○B委員 応募の状況は市内の法人と理解してよいか。

○事務局 市内と市外の両方がある。

○B委員 会社の参入もあるのか。

○事務局 株式会社のエントリーもある。

○B委員 そこは審査の段階での対応となるか。

○会長

事業主体に関係なく利用者にとっての良さや質の担保が配慮されているかが、審査の条件になる。

○C委員

この施設は0、1歳ということで、預かっていただく親の立場はありがたい。次の年齢になったときに課題が出てくる。次につなげるとか、子供の特性とかをつなげていく継続的な考えはどうか。

○事務局

事業者には市内に連携できるこども園を指定する。3歳になればそこへ行く。あるいは保育士の交流や研修とか、助け合える連携園を事前に決めることを条件にする。

○会長 事業者に期待するということか。

○事務局 認可の必須条件。これがないと認可できないということになる。

○D委員 小規模保育所と市との関係はどうなるのか。

○事務局

私立の認定こども園と同じで、運営費を支給する。市からは必要に応じて指導、支援する、そのような関係。

○D委員 ホームページの園の一覧に、施設が増える感じで、周知もされるということか。

○会長

設立母体に関わらず、しっかりネットワークを持って風通し良く調整していく。そのことによって住民サービスに責任を持って保障していく。それを確認した。

(2) 加西市保育士等定着支援一時金給付事業について

○会長

私も大学に勤務している。保育士は月々の収入の面で長続きしないとかそういう現実もある。離職すると個人の問題というよりも、その地域の子育て支援が保障できなくなってくる。子育て支援の質を保障ということにおいて、市としての責任を問われる。中核都市の姫路市の例に合わせてという案だが、ないよりもあるのは当然すばらしい。ぜひ進めていただく前提で意見を頂戴したい。財政的には大丈夫か。

○事務局 はい。

○会長 保育教諭の給与は行政職の公務員と初年度で比べてどうか。

○事務局

正確な比較はできない。同年齢では公立の方が金額的に多いという印象を持つ。ただし、行政の方が非正規職員が多いので、一概に比較できない。

○会長

数字を出すのは悩ましいかぎりと思う。私は岐阜に通っているが、そこでも給与の問題が話題になっている。公立園並みの給与を私立園も出せば、保育士不足はないという。私立の場合、経営も考えると、そこまでは出せないとか。今の現状にプラス5万円なら私立の保育士不足はないという議論も。今までなかった給付金が出ることは、1歩も2歩も前進してる事業展開だと受け止めている。

○教育長 もっと多くしたいが、全体の予算の中でそこまではいかない。

○会長 首長と交渉して、ぜひ。

○教育長

教育にしっかりお金を出すと言っているが、元々の財源が厳しい。事務局からこういう案を出してきたのは、とても良いことだと思っている。

○E委員

この3年で補助金は終わる。それで保育士が定着してくれるのかと思う。新婚手当も3年間でもらえれば、また違うところへ行く話を聞いた。別のところで、もっとよい金額がもらえると出してしまったら、定着じゃなくて、無駄金叩いたみたいになってしまう。

○C委員

労働条件が1日6時間以上かつ1か月20日ということは扶養を外れた方。扶養が外れて保育士として勤めている方がどれぐらいいるのか疑問。扶養の範囲内で働いている方もたくさん知っている。結構、そういう人の方が定着するのではと思う。

支給されるお金はうれしくても、扶養が外れると扶養の壁がある。私も扶養の範囲で働く身。お金は欲しいけれども、それを頂くと扶養が外れるというリスクがある。パートの方には結構厳しいかなと思う。この条件は正規で働いている人だけの支援という形である。

○A委員

明石、加古川、姫路のような播磨沿岸の都市で、保育士の獲得競争みたいなのが起きている。明石市が一番先頭を走り、それに負けじと神戸市、加古川市、高砂市も頑張る。今回3年間で72万円が出ると、地元で就職、加西の園に勤めようというインセンティブが働くと思う。これは扶養で短時間働く人を獲得する目的ではなくて、常勤できる職員を獲得、それが目的ではないかと思う。

72万円、市外からはプラス5万円、これは大きな金額。3年間働けば、職場の中の人間関係も馴染む。そのまま仕事を続ける可能性は高いと思う。私の経験則だが、最初の3年はとても大事だ。この3年間で、20日6時間働ける方を獲得するこのような方策は大変有り難い。

○F委員

私もA委員と同じ思い。こういう制度が初めて加西市にも導入されることは有り難いことだと思う。特に6時間の勤務というのは現場の中で保育をする私たちにとって大変有り難い。短い時間で勤務される方も必要としているが、一日の子供の姿をキャッチしていても、時間の規定で、そこでプツッと切れてしまって、次の先生にバトンタッチとなる状況がある。保育の現場で子供の姿をキャッチするには、本当に有り難い制度と感じる。

○会長

子供たちとのコミュニケーション、これを創り上げていくときに、コンタクトできる安定した人がいるということが、子供の成長にもつながっていくと考える。この6時間20日以上という意味を評価していただいたと思う。また、働き手の立場も考えて。配慮していくということは、今後の継

継続的な課題として行政も受け止めていただきたい。

(3) 未来型児童館の整備計画（案）について

○会長

姫路には県立こどもの館がある。大型の児童館。そこはいろんな機能を持っている。専門の人たちが、巡回相談で県内各地を回る。子供の遊びの広場や、そこへ指導していくプロを育てていく人材養成、B委員との出会いもそこだった。後で説明を。

愛媛県の松山のこどもの家も非常に複合的な機能を持つ。人気のある施設。東京にも子供の城という全国的なモデルになる複合型の大型児童館がある。こじんまりとした児童館ではなくて複合的、多機能的、そんな総合的な大型児童館がいろんなところでつくられている。京都にもそういうところがたくさんある。

加西市も張り合う必要はないが、子供たち、家族、親がそこでホッとできる、家族というものを意識し合える場の雰囲気、機会を提供していくことは、莫大な予算が必要かもしれないが、首長が提案していることは評価していいと思う。隣の播磨中央公園もある意味ではそういったようなところ。こどもの館がどんな多機能でやってるか、B委員、説明を。実にいろんな機能がある。

○B委員

県立こどもの館は、通常の児童館に幼児教育センターが一緒になって、姫路市とコラボしている。姫路市には星の子館という宿泊型の児童館があり、その隣にアトムのやかた、これは科学館。この3体が1体となっていろんな取組をしている。県の役割としては複合的に教育相談、遊びの場の提供、一番大きいのは情報発信機能。巡回型の場合や、インターネットでできる仕組みもある。安藤忠雄氏が建築した県立こどもの館は出来上がって30年経つが、着実にその役割を果たしている。

神戸市では児童館プラス児童相談所の施設がハーバーランドにある。北播磨では、三木市に教育センタープラス児童館の合築がある。機能的には相談支援、情報発信、専門的な発達課題に対して取り組んでいる。

神戸市の場合、児童館にいろんな取組が展開されている。保護者同士で母親クラブを作り、日常的に児童館活動をサポートしている。こどもの館では、劇団グループを作り、年に1回、2回、イベントで披露することもある。教育的な機能を併せ持った子育て支援施設であり、また、子供の遊び場にもなっている。

○会長

今、B委員が紹介しましたが、ぜひ事務局でも、全国の関連施設のデータを集めて、どれかをモデルにする必要はないが、その基礎的な情報を我々にも提供して、こんなイメージでやってるところが全国にあり、加西市の文化風土も含めて、皆さんから意見を頂戴すれば、加西市のニューモデルというのが提案できるのではと思う。そのための意見は自由活発にしたい。今日そういう基礎資料を期待したが、これでは議論がスタートできない。クローズドになってしまう。各地でどんな取組がされているかみたいな。兵庫県のこどもの館でも十分だが、リサーチかけて、次回はぜひその議論を。

○教育長

全部決まってしまうから、こんなふうにしようというんじゃなく、実現できるかできないか、条件いろいろあるけれど、皆さんからいろんな意見伺って、まず作り上げていかないといけないというのが一つ。もう一つは、前例主義にならないこと。前はこうでしたとか。本当に良いものをつくるなら、かわいく良い子にならないで、本当にやりたいのはこうなんだということをやったほうが、私は良いと思う。

○G委員

私どもは福祉会館の児童療育室ひまわりルームを運営している。親子で遊べるキッズの広場もある。それに加えて、柱になるのが療育事業。育てにくさのある子供、本人の側からしても生きづらさのある子供、そういう子供を早期に拾い上げて、将来への自立へ向けてどんなふうにしたら生きやすくなるのか、育てやすくなるのか、そういった悩みを、親子で遊びながら、敷居の低い環境で、専門的な言語聴覚士、心理士の先生と普通に遊びながら、相談できる環境を提供している。専門機関へ紹介する事業もやっている。

人それぞれ、十人十色、同じものはない。人それぞれの成長の仕方、自立の仕方があって然るべきで、みんなで大きくなろう、成長しようということを目指している。この事業、元々は20数年前からずっと療育室でやってきた事業。私自身、子供が小さいときは、こんな場所があることは全く知らなかった。知らない保護者もたくさんいると思う。福祉会館なので、子供のことは、館内ではやっていないと思っている方もある。児童館という子供のための建物ができる。それも自然の多い公園の中にできるっていうのは本当に願ったり叶ったりのことだと思う。

○会長

地道にやっているところも全部位置づけながら、未来型児童館のデザイン設計の必要があると思う。三田市に多世代交流館がある。そこの最初のデザインを全部手掛けた。フラットという愛称で、敷居は高くない。乳児、幼児から中高生、大学生、シルバーも、多世代がフラットと立ち寄れる。アクセスも非常にいい。結構、皆さん利用している。三田市は山間部もあるが、そういう地域にも出前を行っている。

三田駅のすぐ近くには、発達相談ができる施設がある。1か所だけで多機能は発揮できないので、みんなが連携してネットワークを作って、全体として多機能で複合的な役割を果す。

これらは地域の資産、財産になる。子供を産むなら絶対三田、子供を教育するなら絶対三田、子育てをするなら絶対三田と言って、市長自らが宣伝している。森市長もB委員も私も一緒に兵庫県のこども園制度をスタートさせた。森さんは子育てに情熱を持っていて、子育てをおろそかにしたら地域はないと言う。ぜひ、三田市のフラットのぞいてみてほしい。兵庫県のいろんなところに、地味ではあるが、加西市が構想しているような機能を発揮している子育て支援施設がある。検索して資料まとめて、私たちに提供すれば、手掛かりの意見はいっぱい言える。

○事務局 ここを見ておくといいとか。

○A委員

5年後に施設ができるとのことで、夢のある話を聞かせてもらった。教育長も言われたように前

例主義は取り外してほしい。前例主義は頭を使う必要がないので、楽。大きな失敗をするリスクも少ない。失敗するリスクは小さくなる代わりに大した成功もない。

○教育長 建物を建てるだけ。

○A委員

これだけのものを考えるのだから、皆さんで知恵を絞って協力していきたいと思う。児童館なので、18歳の高校生までが対象。若い人、高校生、中学生が、小さい子供のためにボランティアができる。そんな児童館であればいいと思う。高校生が小さい子供や母親と一緒に何かをすることで、ボランティアができる、なおかつ学べる、そんな機能があれば。

発達支援も大きな課題となっている。私どもも放課後等デイをしている。スタッフの研修、交流する場所がほしい。いろいろありますが、少しバラバラ。一つにまとめれば、さらに研鑽、交流できる。一緒に話をする場所があるだけですごく意義のあること。それができる場所がつくられればと思う。

○教育長 この絵だと小さい。

○E委員

玉丘史跡すごく良いと思う。ただ、見たときに小さいなって思う。遊具があるところは、すごく水はけが悪く、子供を遊びに行かせたら、泥だらけになって帰って来るのが気になる。駐車場も狭い。市として特別支援に力を入れているという言葉、特別支援を必要とする保護者にはうれしい。

それぞれの施設の連携が取れていなかったのか、何のフォローもなく、支援が必要な子供が放置された話があった。その時間がすごくもったいない。その子供にもっとしてやれることがあったのではと思う。今回の話を聞いて、そういう母親が少なくなれば良いなと思う。

いろいろ聞いてると人口は減っているのに、障がいを持つ子供が増えている。専門機関で療育を受け入れる時間もかなり減らされてるみたいだ。小学生は1年生だけと決められていたりする。A委員が言うように18歳までとなるなら、そういう不安が解消される。そこまできっちりしてもらえるのなら、それは最高だと思う。

○会長

児童館にはそういう機能が当然含まれる。三田市の多世代交流館も親子同士の交流の中で、元気になって、ああ、来て良かったと、また次も来るよという姿がある。

○C委員

頂いた本の中で、障がいのある園児への指導という項目があった。今、箱ものや理想の話をしている。E委員と同じ思いで、現在の連携が取れないのはなぜかというところをしっかりと考えるべきではないかと私は思う。

園で働く先生に聞くと、発達の遅れがあるよと言っても、親が認識しなければ、つながらないというもどかしさがあると聞く。悩んでいても、つながらないまま来ているという状況だ。園長先生には、園の子供たちの支援をどうつなげているのか、何年も前から聞きたいと思っていた。子供の発

達に困っている母親につながらない、園で働いてる人にもつないでいけない。

良い施設があると言われても、実際に行ってみても療育は受けられない。人数が多すぎると言われて。でも、先に先に問題を置いていけば、本当に子供は1年、1年大きくなって、本当にどこかで拾い上げないといけない。問題を後回しにするのではなく、こういう場で考えていただきたい。

園では、どうされてるか。

○事務局

園で預り、保育していて、気になる子供は確かに多く、そのときの連携について少し説明する。

まず、一番多いのが2歳児。今度、3歳児検診を受けるということが誕生月で分かる。そのときに保育の担当者が、園での子供の様子を見ていて、困り感があるという情報があれば、園長を通じて、こども未来課に連絡が入る。そして、3歳児検診を受けるときに注意深く見てもらい、保護者にはタイミングが合えば相談する体制を健康課と調整している。今度、検診があるので、そのときの様子とか、フォローを依頼する。検診が終われば、こども未来課に報告があります。依頼のあった園には、このような結果だったということで、健康課からマーブルキッズへつなぐケースもある。

次年度に子供が進級するときには、指導会議があるので、そこで保護者の同意と医師の診断を得て、その会議で加配の配置を決定する。

それ以外の連携では、マーブルキッズに園訪問を依頼し、園での子供の様子を見てもらい、園でできる指導やアドバイスを毎年もらっている。園訪問は各園から訪問依頼を受けて、マーブルキッズが計画を立てる。今年度も市内各園から依頼があり、かなりの訪問回数となった。

○G委員

園訪問は6月から11月の間に行っている。昨日も1件あった。期間外でも依頼があれば、その都度、言語聴覚士、心理士と一緒に伺い、子供の様子を見て、園の先生と協議する。

○E委員

3歳児検診のときの園との連携の話だが、園には入れずに、自分ができるどこまで、子供と向き合ってあげたい親もいる。子育てひろばに行って、例えば、ひろばの先生から見て、ちょっと気になると思って、その先生からこども未来課へ子供の情報が届くならよいが。以前、加配が就くまでにかかり時間がかかった子供がいた。連携が取れていないと感じた。

○事務局

年度途中の加配配置はハードルが高い。4月からの配置は、次年度に向けて準備し、職員も確保するが、年度途中は新規の保育士募集からかけていくことになる。募集かけても集まらないこともある。保育士の採用があっても、必要性の高いところからの配置になる。職員の確保ができないことには配置ができないという難しさがある。

○E委員

子育てひろばの先生からこども未来課へ連絡が入っていたら、4月からの準備もできたのでは。

○事務局

いろんなケースが毎年ある。各機関との連携の必要性は本当に感じているところ。ひろばは未来課の担当で、気になる子供については記録を取っている。その情報も共有し、健康課やマーブルキッズと確認を取ることもある。今年度、遅くなったが、気づいた点もあり、その部分の情報共有は手厚くしていこうと始めている。これまでの経過の中で、間に合わなかった点は多々あった。

○E委員 今の話が聞けたので、少し安心した。

○会長

私たちの生活は、幼い子供、青年、高齢者、元気な人も障がいのある人も、様々な違う立場を理解、受け止め合っていく。これからの社会、地域づくりとなる。加西市もインクルーシブをさらに超えたユニバーサルデザインを。誰でもが当たり前のように向き合い、一緒に地域でやっという感覚。SDGsもそういう文脈で、教育長も推進している。そういう観点も含めて、未来型児童館、これから具体の意見をどんどん出していく。行政にもすでに宿題を投げかけた。

○事務局 いろいろな提案、アイデア、受けながらこれから考えていきたい。

○教育長

この子ども・子育て会議のように女性がストレートに素直に意見を言う会議って、私が出ている中ではあまりない。女性が会議に入れば、違うまなざしがあり、当然、会議も長引く。長引いても良いと私は思う。ざっくばらんに現実を踏まえた上での提案型の意見、建設的な意見をいろいろ寄せていただきたい。

3. その他

○事務局 次回の日程は来年度に。詳細は後日、各委員に連絡。

4. 閉会